7章 教育研究等環境

7-1 キャンパスの施設環境

［現状の説明］

新宿、八王子の２つのキャンパスをより一層有効に活用するために、この間、下記の施策を実施した。

１）施設の整備

2006（平成 18）年度から 2008（平成 20）年度は、新宿校舎においては情報学部の創設に伴い、教室、情報処理演習室、実験室、研究室を整備した。八王子校舎においてはスチューデントセンターの供用を開始し、夢づくり工房の整備、グローバルエンジニアリング学部のための犬目校舎改修工事を行った。

２）教室の視聴覚設備の更新

教室の視聴覚設備の更新について、大学・「教室ＡＶ更新検討ＷＧ」のもとに、仕様書の作成、工事実施を検討した。

３）照明及びトイレの改善

環境整備、省エネルギーの一環として照明及びトイレの改善を実施した。この計画は今後も継続的に実施する。

４）エネルギーおよび建物運用経費の削減

長期的な課題として、文部科学省、経済産業省、東京都による、地球温暖化対策に伴うエネルギーの削減、また、財政的な課題としては建物運用経費の削減があげられるが、いずれについても設備改善、運用改善による対策を進めている。クール・ビズ運動は学生の環境教育を兼ね、構成員に省エネルギーへの協力を得る目的で実施している。

５）ISO14001 の取り組み

ISO14001 は 2001（平成 13）年に認証を取得し、2007（平成 19）年に 2 回目の更新を迎えた。教育研究、省エネルギー、省資源においては成果が出ているが、学生の主体的な参加が不十分であった。2008（平成 20）年 9 月に有志の学生を中心に「工学院大学 ISO 八王子学生委員会」が発足し広報誌「エコ通信」発刊を手始めに活動を開始している。

６）ＢＥＭＳ設備の更新

2005（平成 18）年度住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金（ＢＥＭＳ導入支援事業）の補助を受け BEMS 設備を更新し、空調エネルギーを 2002（平成 14）～2004（平成 16）年の 3 年間の平均値に対して、毎年約 15%削減している。

年度、キャンパスごとの具体的な実施項目については、下記のとおり報告する。

１）2006（平成 18）年度 新宿校舎

(1) 新教育体制（情報学部）に伴う中層棟改修工事を行い、中層棟 6 階に第 3 情報処理演習室（B-0630）を、中層棟 5 階に教室 2 室（B-0563、B-0567）を新設した。

(2) 新宿校舎 20 階、21 階の化学系実験室を八王子校舎工房・化学実験棟（17 号館）に移転し、そのあとに、第 5、第 6 会議室を設けた。

(3) 耐用年数を迎えた校舎内照明を 11 年計画にて、学生利用の多い研究室、教室から順に省電力インバータ式照明に交換している。照度が増し、照明用電力は約 25％改善する。23, 22, 21, 9, B1 階を工事の対象とした。

(4) 電話外部回線をアナログ回線から光 IP 電話回線に変更し電話料金を 50％削減した。

(5) 地下道に面した地下１階玄関照明が暗かったため、照度を上げ、扉、壁をクローズアップする配光とし、明るい印象に改善した。

２）2006（平成 18）年度 八王子校舎

(1) スチューデントセンターは、設計プロポーザル最優秀案が実現の運びとなり着工した。

(2) グローバルエンジニアリング学部の使用に伴う犬目校舎の改修工事を行った。

(3) 前年度の新宿校舎に引き続き、八王子校舎 32 教室の視聴覚設備を最新式のものに更新した。併

せて新宿、八王子の建築系学科設計室の視聴覚設備を高精細なカメラ、液晶プロジェクターを備えたものに更新した。

３）2007（平成 19）年度　新宿校舎

(1) 新教育体制に伴う改修工事を行った。15 階に情報学部研究室を設置し、第 2 情報処理演習室・３D デザインセンターを 15 階から 16 階へ移設、11 階に 3 教室（A-1111,A-1161,A-1165）を新設した。

(2) 年次計画で実施中の照明設備改善工事（12,8,7,6,5,4 階）を行った。

(3) 高層棟 2 階入学課窓口設置工事を実施した。

(4) 中層棟 6 階に B-0663 教室（200 名収容）を新設した。

(5)「地震防災対策タスクフォース会議」の企画により緊急地震速報を用いたエレベータの最寄階停止制御システム導入工事を行った。

４）2007（平成 19）年度　八王子校舎

(1) 旧食堂に替わり、学生生活の中心施設として延床面積 4,614 ㎡のスチューデントセンターが竣工した。1 階は多目的ホール、売店、2, 3 階は食堂とし、座席総数は旧食堂の 540 席から 790 席に増加した。4 階には「就職支援センター」、学生委員会関係室 7 室を設けた。多目的ホールと食堂の愛称を公募し、多目的ホールを、「いぶきホール」、食堂を「stella（ステラ）」と命名した。

５）2008（平成 20）年度　新宿校舎

(1) 14 階の情報系マシン室においてサーバー機器増設により空調能力が不足したため空調設備を増強した。

(2) 年次計画にて実施中の照明設備改善工事（高層棟 16,11,2 階、中層棟 6,4 階）を実施した。

(3) 23、25 階に節水・省電力機能のあるウオッシュレット付き女子トイレを新設した。

６）2008（平成 20）年度　八王子校舎

(1) 照明改善工事（5 号館地下１階、100 台）を実施した。

(2) 3,5 号館、12 号館、ＡＭＣ，Ｃキューブ、図書館、松風舎、部室棟、体育館のトイレのウオッシュレット化工事を行った。

(3) 年次計画で 5 号館空調機の更新に着手した。

(4)「地震防災対策タスクフォース会議」の企画により地震時の初期の安全確保のため気象庁緊急地震速報を用いた全館放送設備を設置した。初期の人的、物的被害を軽減することが目的である。設置範囲は大学八王子校舎、犬目校舎、附属中学校・高等学校とした。

(5) 4 号館 4-301 実験室に排気設備を増設した。

[点検・評価][長所と問題点]

１）新宿校舎

(1) 全般的に空調、照明、トイレなど建築設備の改善は実施されつつあり、環境改善とともに、省エネルギー、経費削減に寄与している。教育用の視聴覚設備についても適切に整備されている。

(2)設後 20 年を迎え、設備の修繕・更新費用が増加し、限られた予算の中で直接支障のある建築設備の手当を優先するため、塗装など内装の改善が遅れている。突発的な設備修繕も多く修繕費は不足している。

(3)学生ホールなど学生の居場所が不足している。

２）八王子校舎

(1) 空調、照明、トイレなど建築設備は改善されつつある。新宿校舎同様教育用の視聴覚設備は適切に整備されている。

(2) 八王子校舎は建物が分散し、エネルギーを集中制御できる環境が整っておらず、新宿校舎に比べてエネルギーの効率的な削減が難しい。

(3) 建物設備が全般に更新時期を迎え、新宿校舎と同様に設備の修繕・更新費用が増え、建築設

備の手当を優先するため、外装の整備が遅れている。
(4) 八王子校舎については老朽建物の建て替え計画は策定されつつある。
(5) 犬目校舎については、利用計画並びには建物の改修計画の策定を要する。

[将来の改善・改革に向けた方策]
1）新宿校舎
(1) 内装については機をみて改修したい。
(2) 建築設備の大掛かりな更新が発生する時期に来ている。予防保全を心がけ建築設備の延命に努めたい。
(3) 地下 1 階の利用状況を見直し、学生ホールスペースを拡張するとともに、内装改修を行う。1 階、地下 1 階、地下 2 階トイレの和式便器を洋式とし併せて内装改修する。
(4) 教室階、研究室階のトイレについてウオッシュレット化などの改善を行う。

2）八王子校舎
(1) 新棟の建設、マスタープラン策定を機に外構の整備を行う。
(2) 八王子校舎の 5 号館には建築設備の集中監視室（設備センター）があるが、比較的新しい建物についても集中制御システムへの接続が不十分である。エネルギーを包括的に制御できるよう改善する。
(3) 既存建物の塗装を含む整備工事を新棟の建設を機に計画する。

7-2 図書館および図書・電子媒体等

大学図書館の目的は、大学における教育・研究などのさまざまな活動において、学内構成員や関係者が必要とする資料と情報を効果的・効率的に提供し、大学の目的達成を支援することである。また、大学図書館の機能・役割には、教育支援機能、研究支援機能、公共的機能があり、パブリックサービス（利用者サービス）とテクニカルサービス（資料整理・管理）との融合によって実現する。

現在、大学図書館を取り巻く環境は大きく変化している。とりわけ、(1)「ネットワーク情報資源」に代表される電子ジャーナルやデータベースなどの学術情報基盤整備、(2)図書館資料を使用した快適な学習空間を提供する「場としての図書館」の整備、(3)大学教育カリキュラムと連携した学習支援機能の強化など、図書館資料を単に保存し提供するのではなく、時代の変化や図書館界の動向を把握し、図書館にストックしている資料や情報に付加価値をつけて、利用者の潜在的な利用に結びつけることが求められている。

すなわち図書館とは、大学の教育・研究活動に対する基幹的サービス提供機関であり、本学図書館もこうした変化に取り残されることなく、図書館界の動向や学術情報の趨勢を常に把握し、利用者の要望を常に意識しながらサービスの向上を実現していく。

7-2-1 図書館資料の体系的整備

[現状の説明]
1）所蔵資料

本学図書館には、和図書・洋図書、雑誌以外に、学位論文（修士・博士）、視聴覚資料（DVD、LD、ビデオ、CD）、特別コレクション（図書、雑誌、スケッチ等）が所蔵されている。これら資料の主題領域は、本学の学部構成上、自然科学、科学技術、工学系が中心になっている。また、教職特別課程等もあるため、理科・数学教育関係や博物館学関係資料をはじめ、人文科学、社会科学、芸術学関係の資料を収集し、工学関係の周辺領域や学生の教養を高める上からも、選書の際にはバランスのとれた蔵書構成を心がけている。

他方、自然科学、科学技術、工学系の研究には、最新の学術情報を常に得る必要がある。従来は、学術雑誌がその役割を果たしてきたが、近年は、電子ジャーナルへと変わりつつある。もちろん、図書についても電子ブックが出現している。

こうした状況の中、本学の資料所蔵数は 2008（平成 20）年度末現在、図書・雑誌・視聴覚・学位論文・特別コレクションを含め 30 万冊を超えている。図書館内に配架されている資料は、新宿約 7 万冊、八王子約 12 万冊、研究用図書として教員に貸出している図書は、新宿・八王子合わせて約 4.6 万冊である。和・洋雑誌は、新宿・八王子合わせ約 2,500 タイトル、製本雑誌冊数は約 56,000 冊に及ぶ。また、電子ジャーナルは約 14,000 タイトル、電子ブックは、39 タイトル契約している。

表 7-1　図書館蔵書数　2008（平成 20）年度末

	図書冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の所蔵数（点数）	電子ジャーナルの種類
	図書冊数	開架図書数（内数）	和	洋		
新宿	194,621	73,333	851 種類	806 種類	3,165 種類	14,243 種類
八王子	119,872	119,872	662 種類	182 種類	2,946 種類	＊
計	314,493	193,205	1,513 種類	988 種類	6,111 種類	14,243 種類

２）電子ジャーナル

本学図書館では、電子ジャーナル・データベースの導入に力を入れている。電子ジャーナルには、①図書館に来館せず、24 時間利用可能、②複数人の学生が同時に利用できる、③冊子体刊行前の論文の閲覧が可能、④製本の維持・管理の必要がない、などの長所がある。本学図書館では、2005（平成 17）年度までは購読中の冊子体に無料で付いている電子ジャーナルを 1 タイトル毎に契約するに留まり、総計で 30 タイトルと小規模であった。そこで、電子ジャーナルの動向や他大学の調査、契約形態の把握などに努めた結果、2006（平成 18）年度には、Nature、Springer、Science、Blackwell、Cambridge University Press、日経 BP を導入した。また、2007（平成 19）年度には、IEL Online（IEEE）、Science Direct（Elsevier、理工系パッケージ）を導入した。2008（平成 20）年度には、ACS、RSC、Science Direct（化学・材料パッケージ）を導入した。これらは、公私立図書館コンソーシアム（PULC）により値引き交渉が行なわれている。本学図書館もこのコンソーシアムに加盟しており、有利な条件で電子ジャーナルを契約している。

電子ジャーナルのアクセス数については、毎年増加傾向にある。2006（平成 18）年度には、約 16,000 論文のアクセスが、2007（平成 19）年度には約 49,000 論文のアクセス、さらに 2008（平成 20）年度には約 70,000 論文のアクセスがあり、大学における必要不可欠な学術情報基盤となっている。

表 7-2　電子ジャーナル論文アクセス数

	2006 年度	2007 年度	2008 年度
アクセス数	15,969	49,704	69,918

３）特別コレクション

本学図書館では、3 種類の特別コレクションを所蔵している。第一は、民家研究から考現学、生活学創始に至る多彩な研究活動を続けた元早大教授で本学非常勤講師を務められた今和次郎のコレクションである。第二に、今和次郎に師事し、農村建築、農村住宅改善、農村舞台研究に力を尽くした元中部大学教授竹内芳太郎のコレクション、第三にアメリカにおけるモダン・ムーブメントによるインターナショナルスタイルの定着に努めたヒッチコックのコレクションである。ヒッチコックコレクションは 1982（昭和 57）年、今和次郎コレクションは 1991（平成 3）年、竹内芳太郎コレクションは 2004（平成 16）年に図書目録等を作成年譜・自著目録・蔵書目録などをホームページで公開した。

2006（平成 18）－2008（平成 20）年度に、下記の取り組みを行なった。

(1) 2006（平成 18）年度

「見聞野帖」（30 冊、約 3000 枚）、「欧州紳士淑女以外」（約 180 枚）デジタル化を行ない、保存用画像（TIFF）と公開用画像（JPEG）を作成した。この結果，現物の閲覧を防ぐことができ、以後、複製

物での閲覧となった。

「見聞野帖」のデジタル化に伴い、図録を作成した。(4 分冊、ハードカバー)

「見聞野帖」のホームページを新設した。「見聞野帖」の概要をはじめ、全タイトルリスト・地名を紹介している。代表的な作品について 5 枚選定し、作品の解説を付けている。さらに、「信州北部・越後南部旅行」「夫婦所有全品調査」について 10 枚をデジタル画像で展示している。画像の拡大も可能である。

「欧州紳士淑女以外」のホームページを新設した。「欧州紳士淑女以外」の概要をはじめ、全タイトルリスト・地名紹介している。また、5 枚の作品を画像で公開し、解説を付けている。さらに、10 枚は、デジタル画像で展示している。画像の拡大も可能である。

八王子図書館において、竹内芳太郎コレクション保管場所をつくり、書架の設置など環境整備を行った。

(2) 2007（平成 19）年度

「欧州紳士淑女以外」の図録を作成した。この結果、原資料（実物）の閲覧を避けることができるようになった。

「見聞野帖」ホームページにデジタル画像を追加した。(10 枚)

欧州旅行写真（パリ・ベルリン等）のデジタル化作業を実施した。約 1,000 枚をデジタル化し、地名別にリスト化した。

図書館内に電子展示を行なった。これは、図書館内の蔵書検索端末のスクリーンセイバーの機能を使用して、デジタル化した作品を展示し、図書館見学者、学生に PR することができた。

図書館特別コレクションのパンフレットを作成した。見学者等に広く周知・案内することができた。

(3) 2008（平成 20）年度

「しらべもの展覧会」作品をデジタル化し、ホームページを新設した。ホームページには、作品のリストと、解説が記載されている。

大越娯楽場の設計図面をデジタル化した。

中性紙保存箱を購入し、作品の劣化対策に努めた。

民家関係資料、考現学関係資料をファイルに整理し、リスト化した。

このほか、継続的に今和次郎、竹内芳太郎コレクションの雑誌のデータベース化にも取り組んだ。今和次郎コレクションには約 180 タイトル、竹内芳太郎コレクションには約 190 タイトルの雑誌を所蔵している。

特別コレクションのホームページは、資料整理が終了した資料群から少しずつ公開している。2008（平成 20）年度現在、「見聞野帖」、「欧州紳士淑女以外」、「しらべもの展覧会」のリストと一部作品及び解説が Web から閲覧できる。

これらの特別コレクションは、社会的に評価が極めて高く、教育機関、地方公共団体、博物館、美術館等からの借用依頼や、新聞社、雑誌社、編集者、大学院生などから掲載依頼が多い。(表 3～表 8)

表 7-3　2008（平成 20）年度・図書雑誌掲載依頼一覧

掲載雑誌・図書名	作品名
『青森県立美術館展覧会スケジュール 2008-2009』（青森県立美術館，2008.4）	□ オックスフォード駅のチョコレート売り（『欧州紳士淑女以外』より）
『高橋文太郎の真実と民族学博物館』（西東京市・高橋文太郎の軌跡を学ぶ会，2008.6）	□ 今和次郎自画像（1934 年） □ 日本民族博物館屋外部設計俯瞰図
『月刊イオ』No.144（白凛，2008.7，p.71）	□ 丸太造りの民家の外観と内部（朝鮮の民家）
『住む。』No.26「今和次郎日本の民家再訪：第一回」（中谷礼仁，2008.8，p.104-112.）	□ 内郷村を臨む対岸からの景観（見聞野帖 2） □ 「中農」の配置平面図（見聞野帖 2）
『住む。』No.27「今和次郎日本の民家再訪：第二回（中谷礼仁，2008.11，p.80-88.）	□ 針金工場スケッチ（見聞野帖 2） □ 旧河内村大字の母屋と灰小屋のスケッチ（見聞野帖 2） □ 灰小屋写真
『住む。』No.28「今和次郎日本の民家再訪：第三回（中谷礼仁，2009.2，p.89-96.）	□ 浦山村調査スケッチ 2 枚（見聞野帖 3）

『朝日新聞』「今和次郎は終わらない」 （2009.1.25）	□　今和次郎写真（今和次郎先生記念写真帖） □　某家庭所有全品調べ □　銀座街風俗「野帖 27」
【放映】青森テレビ：ATV ニュースワイド （青森テレビ，2009.3.11）	□　欧州紳士淑女以外 □　某家庭所有全品調べ □　銀座のカフェーWaitress 服装採集 □　銀座一帯飲食店分布状態　他
『住む。』No.29「今和次郎日本の民家再訪：第四回 （中谷礼仁，2009.3，p.89-96.）	□　千葉民家スケッチ（3 枚）（見聞野帖 2）
『愛と美の法則』 （美輪明宏，PARCO 出版，2009.4，p.36）	□　震災直後の資生堂バラック

表 7-4　2008（平成 20）年度・出展依頼一覧

博物館名称	展覧会名	作品名
江戸東京たてもの園	特別展「日本の建物　第 2 部『建物と夏』」 2008/7/1～2008/8/31	■八丈島家屋解説（見聞野帖 4） ■野帖 21（八丈島） ■野帖 22（八丈島，小笠原諸島）
江戸東京たてもの園	特別展「日本の建物　第 3 部『日本の建築博物館』」 2008/9/13～2008/12/7	■日本民族博物館屋外設計原図 ■スカンセン鳥瞰図
日本民俗建築学会	2008 年度日本民俗建築学会シンポジウム「詣の中心と周辺善光寺」 2008/10/13	■信州北部・越後南部旅行（見聞野帖 1・野帖 16） ■木曽（見聞野帖 5）
田村市教育委員会	旧大越娯楽場国登録有形文化財記念特別展示「大正・昭和初期のロマンを探す」 2008/10/25～2008/11/3	■今和次郎写真 ■大越娯楽場設計図面一式 ■大越娯楽場スケッチ ■大越娯楽場写真
青森県立美術館	今和次郎特別展示 2009/1/1～2009/4/5	■欧州紳士淑女以外 ■欧州旅行写真 ■欧州旅行絵はがき（約 300 枚）　他
岡崎市美術博物館	「あら，尖端的ね。」大正末・昭和初期の都市文化と商業美術 2009/2/14～2009/3/29	■震災バラックスケッチ ■バラック装飾社資料 ■野帖（4 冊） ■しらべもの展覧会資料　他

表 7-5　2007（平成 19）年度・図書雑誌掲載依頼一覧

掲載雑誌・図書名	出版社	刊行年月	作品名
【今和次郎コレクション】			
①　『紀伊國屋書店小史 1927-2007』	紀伊國屋書店	2007.5	・「しらべもの展覧会」会場写真
②　『10+1』(No.47)「日本の民家再訪 5」	INAX 出版	2007.6	・四国及び紀州紀行の調査項目（見聞野帖 2） ・徳島県三好郡三縄村字中西の民家（見聞野帖 2） ・川崎全景スケッチ（見聞野帖 2） ・中農の配置平面図/断面図（見聞野帖 2）
③　『建築雑誌』(Vol.122,No.1564)	日本建築学会	2007.7	・今和次郎自画像写真
④　『10+1』(No.48)「日本の民家再訪 6」	INAX 出版	2007.9	・高知県幡多郡上川口村漁家（見聞野帖 2） □・南阿波の漁家（見聞野帖 2）
⑤　『朝日新聞』和歌山県版		2007.9.29	・川原家の写真（5 枚） ・川原家の組み立て方の写真・メモ
⑥　『南紀州新聞』		2007.10.10	・川原家の写真（2 枚）
⑦　『ケンチクカ：芸大建築科 100 年建築家 1100 人』	建築資料研究社	2007.9	・銀座考現学調べノート ・今和次郎自画像写真
⑧　『10+1』(No.49)「日本の民家再訪 7：民家へ：伊豆大島編」	INAX 出版	2007.12	・大島・岡田の景観（見聞野帖 2） ・大島・岡田のかたち（見聞野帖 2）
⑨　『Ahaus（アーハウス）』		2008.3	・銀座のカフェーWaitress 服装採集

No.6			・しらべもの展覧会目録 ・早稲田付近各種飲食店分布図（1926） ・試験農家・設計図　ほか
⑩ 『NICHE:工学院大学建築系学科同窓会誌』	工学院大学建築系学科同窓会	2008.3	・欧州紳士淑女以外 ・本所深川貧民窟付近風俗採集 ・今和次郎自画像写真　ほか
⑪『新青森市史：別編 3 民俗』	青森市	2008.3	・ネブタ連合運行図 ・路ゆく人さまざま ・冬の風俗 ・明かり採りと空気抜き　ほか
【竹内芳太郎コレクション】			
① 『窓：工学院大学学園広報誌』（No.153）	工学院大学広報部	2008.1	・第五回郷土舞踊と民謡の会スケッチ ・香川県小豆島池田の石段桟敷立面図 ・兵庫県上三河の廻り舞台 ・山形県鮭川村調査　ほか
② 『Ahaus（アーハウス）』No.6		2008.3	・西津軽郡川除村 SY 氏宅間取図 ・学術振興会会議の模様（1939 年）（写真） ・鮭川村の農村住宅平面図　ほか

表 7-6　2007（平成 19）年度・出展依頼一覧

博物館名称	展覧会名	作品名
① 森県立美術館	今和次郎常設展 2007.6.26-2007.12.24 （2008 年度も継続予定）	・しらべもの展覧会作品 ・東京銀座街風俗記録 ・某家庭所有全品調べ ・朝鮮関係資料　　ほか
② 佐藤春夫記念館	佐藤春夫と西村伊作展（企画展） 2007/11/1～2008/3/9	・川原家の写真（1 枚） ・民家写真帖（和歌山・新宮・川原家 1 枚）

表 7-7　2006（平成 18）年度・図書・雑誌掲載一覧

掲載雑誌・図書名	出版社	刊行年月	作品名
【今和次郎コレクション】			
① 奥日報：笹森儀助風霜録 122	東奥日報社	2006.8.12	1922 年朝鮮北部調査写真（1 枚）
② 『10+1』（No.44）「日本の民家再訪」（中谷礼仁）	INAX 出版	2006.9	見聞野帖全景写真 秩父浦山村の掛小屋の内部（見聞野帖より）
③ 窓：工学院大学学園広報誌』（No.148）	工学院大学広報部	2006.11	銀座一帯飲食店分布状態 欧州紳士淑女以外 銀座のカフェーWaitress 服装採集 銀座通行人調査　　等
④ 『10+1』（No.45）「日本の民家再訪」	INAX 出版	2006.12	内郷村を臨む対岸から（見聞野帖） 旧増原の水車小屋スケッチ 「南畑」家の所有地を記録した切絵図の写し
⑤ 『大正期新興美術資料集成』	国書刊行会	2007.1	バラック装飾社東條書店写真 開進食堂写真
⑥ 『青森県史だより』（No.15）	青森県史編纂室	2007.2	秩父浦山村の掛小屋の内部
⑦ 『10+1』（No.46）「日本の民家再訪」	INAX 出版	2007.3	甲州街道の調査スケッチとメモ 「大久保町」短冊形地割りの宅地見取り図
⑧ 『新宿文化絵図』	新宿区地域文化部	2007.3	しらべもの展覧会写真
⑨ 『青森県の暮らしと建築の近代化に寄与した人々』（青森県史叢書）	青森県環境生活部	2007.3	欧州紳士淑女以外 見聞野帖スケッチ　多数 同潤会東北地方農家住宅調査資料 しらべもの展・考現学資料　多数

【竹内芳太郎コレクション】			
①　『グラフ青森』(322 号)「知られざる青森」	グラフ青森	2006.4	下北郡田名部町の農家
②　『図説五所川原・西北津軽の歴史』	郷土出版社	2006.12	郷蔵，農村家屋，漁村の調査（写真）

表 7-8　2006（平成 18）年度・出展依頼一覧

博物館名称	展覧会名	作品名
①　森県立美術館	今和次郎常設展 2006.7.13-2007.3.31 （2007 年度も継続予定）	・見聞野帖（4 冊） ・バラック装飾社写真 ・民家写真集 1 ・信濃越後地方民家　ほか
②　媛県歴史文化博物館	ときめくファッション展 2006.10.4-2006.11.26	・松屋地下室喫茶部の女給・バスガール（写真ネガ貸出）

［点検・評価］［長所と問題点］［将来の改善・改革に向けた方策］

各学科の図書費で購入する図書は、年度末の時期に購入が集中する傾向があり、予算が適切な状態で執行できず、予算編成および運用の改善が必要である。学術雑誌の刊行形態が紙媒体から電子媒体へ移行している現状や電子ジャーナルの有益性を考慮し、冊子体の購読中止や図書費予算の全体的見直しが急務である。既に他大学では電子ジャーナル導入に力を入れて、数億円の予算を計上している場合もあるようである。電子ジャーナルは、2004（平成 16）年以降、出版社毎のパッケージに対する大学コンソーシアムを経由した契約が一般的となっており、本学でもコンソーシアムを利用することとしている。電子ジャーナルの費用は複数のジャーナルがパッケージとなっている場合が多く、一般的に 500 万円～1,000 万円と高額となり、また多領域の学問分野にまたがる。一方、2005（平成 17）年度までは、本学では、外国雑誌の購入は各学科に配分された予算により行われており、電子ジャーナルを単独の学科、もしくは図書館独自で契約することは困難であった。

そのため、2006（平成 18）年度は、事業予算として導入費用約 1,000 万円計上し、2007（平成 19）年度には継続分と新規契約分あわせて約 2,670 万円を計上した。2008（平成 20）年度には、新規導入を含む継続分の電子ジャーナルと重複している冊子体契約を解除し、解除した予算を各学科図書費から按分して差し引いた（1,400 万円）。しかしながら、学科により電子ジャーナルの費用にばらつきがあるため、今後、各学科図書費から差し引く方法は見直す必要がある。特に、電子ジャーナル導入に伴う冊子体の購読中止による図書予算の削減の扱いについては図書館運営委員会、各学科図書委員で審議し各方面の協力を求めて行く必要がある。

大学の研究環境の充実、大学教育と連携しての学習支援強化をするためには、全学的な取組として電子ジャーナル導入を積極的に推進しなくてはならない。予算面では、電子ジャーナルは出版社側のパッケージの組み換えや急激な価格改定、外貨為替のレートなどにより、年度ごとに大きく変動する可能性がある。これをサポートするために、予算編成上経常費とは別枠化する必要性があるのではないかという意見もある。

本学の特別コレクションには膨大な資料があり、少しずつ整理しているが未だに整理できずに置かれている資料や、整理されても保管・保存する環境、空調設備が十分ではない資料もある。2005（平成 17）年度には新宿図書館 3 階に空調設備を備えた収蔵庫を確保した。

特別コレクションの学外からの評価は極めて高く、ホームページを閲覧しての問い合わせが増加している。しかし、資料の整理、目録・データベース化、デジタル化には、多くの労力と費用が発生し、収蔵庫のスペースも不十分である。こうした貴重資料の運用には、専門的知識が必要であり、特別コレクションを専属に取り扱う人員配置が望まれる。

7-2-2　図書館の施設・設備

［現状の説明］

１）施設・設備

本学図書館は、新宿キャンパスと八王子キャンパスに 1 館ずつ設置されている。

新宿図書館は、中層棟 2・3 階に設置されている。2 階には、図書館事務室、閲覧室、理工学系和書、AV コーナー、文献検索コーナーがある。中 2 階は書庫となり、和図書の他、修士論文、和洋製本雑誌バックナンバー、新聞のバックナンバーが配架されている。3 階には、閲覧室、人文学系和図書、理工系洋図書、新着和洋雑誌・バックナンバー、博士論文、特別コレクション保管庫からなり、総面積は約 1,380 ㎡となっている。

八王子図書館は八王子キャンパスの中心地に 3 階建ての独立館として建てられている。2 階に閲覧室、グループ自習室、AV コーナー、新聞閲覧ホール、教職員閲覧室、書庫があり、3 階に事務室がある。また、その他、別置書庫があり、総面積は約 1,620 ㎡である。八王子図書館は、採光、照明に工夫をこらし、斬新なデザインの図書館であるが、階段が多く、図書館運搬用の小さなエレベーターはあっても、実際には利用者・職員は重たい図書を運ぶ必要がある。新宿図書館も、2 階と 3 階が階段で結ばれているため、バリアフリー対応になっておらず、身体に障害を持つ利用者にとっては負担が大きい。

さらに、暖房、冷房の運用において、他建物からの運転制御のため、校地に点在する建物の立地、教室環境と同等に取り扱われ、閲覧室として快適な室温・湿度を保持した環境を利用者に提供できず、館内状況により、利用者に衣類着用を奨める、冷暖器具の配置されている場所に移動してもらう等の対策を行っている。改善策として、図書館で独自に室内温度管理のできる施設設備へと改修することにより適切な運用ができる利用環境を整えたい。

２）座席数

本学図書館の座席数は、新宿図書館 253 席、八王子図書館は学習室座席を含め 286 席設置されている。新宿・八王子図書館ともに、在籍学生数から見て、資料の配架スペースも、座席数も十分とはいえない。

新宿図書館では、館内での私語を防ぐため閲覧机にパーテーションを設置し、静粛な環境整備に努めている。他方で、グループでの利用要望もあることから、ディスカッションも可能なグループ学習室の設置が望まれる。

３）図書館スタッフ

図書館を管理運営しているスタッフは、2008（平成 20）年度現在、新宿図書館が専任職員 5 人（うち司書 2 人）、嘱託職員 2 人（うち昼夜間担当 1 人）、パート職員 4 人となっている。また、昼夜間を派遣社員 2 人、日曜開館には，派遣社員 1 人、パート職員 2 人のスタッフで管理運営を行っている。なお、2009 年度から昼夜間閲覧業務と日曜開館業務については、(株)キャリアパワーに業務委託し、17:00 から 22:00 まで常時 3 名の体制になる予定である。業務委託内容は、①カウンター業務、②図書整理業務、③蔵書点検業務、③書架点検、移動業務等である。業務委託という都合上、作業スペースは専任職員・パート職員と区分し、指示命令系統についても、法令順守に留意する。

他方、八王子図書館は専任職員 2 人（うち司書 1 人・司書補 1 人）、パート職員 6 人、派遣職員 2 人という構成である。

４）館内の整備

新宿図書館では、閲覧室内に書架の増設、中 2 階における書架の増設を行なった。また、AV コーナーの書架増設をはじめ、特集図書コーナーを開設し、多領域の図書が目に触れるように工夫している。さらに、特別コレクション展示スペースや、蔵書検索端末のスクリーンセイバーに特別コレクションのデジタル画像をスライドショーで展示している。

［点検・評価］［長所と問題点］［将来の改善・改革に向けた方策］

新宿・八王子図書館ともに資料の配架・保存場所が極めて少ない。旧学生寮（C 棟）に保存されていた図書・製本雑誌は、2005（平成 17）年度まで外部倉庫を借り保管していた。その後、2006（平成 18）年度に犬目校舎に移動し現在に至っている。これらの図書は約 28,000 冊、製本雑誌は約 30,000 冊ある。本来であれば、開架式書架に配架し、学生・教職員等の閲覧に供する資料であるが、保管環

境が整備されておらず、特に図書については段ボール箱に入れただけの野積み状態での保管である。新宿・八王子図書館を併せても、閲覧、書庫スペースに余裕がなく総体的にスペースが不足しており、早急に対応しなければ大学図書館としての機能が維持できない。

特に、座席数については、依然として根本的に改善されず、定期試験中は満席状態になることもしばしばある。文部科学省の大学図書館施設計画要項では「大学図書館は、大学における教育研究の中核的存在であることに鑑み、その施設の近代化と整備拡充を早急に進められことを要望する」とあり、「学生閲覧座席数は、学生が図書資料を容易に利用できるように運営することを前提に学部学生総数の 20%とすることが望ましい」とされている。また、1999（平成 11）年の（財）大学設置基準協会による相互評価の認定結果において、図書館自体の座席数不足を指摘され、「各学科研究室フロアに設置されたオープンスペースが図書館閲覧室を補完するもの（サテライト方式）として有効に機能している学科もあるが、図書館自体の座席数を補い全学的な機能できるよう改善が望まれる」と指摘された。そこで、今後の課題として、下記の点を挙げることができる。

(1)今後 30 年後を見通した 50 万冊規模の中央図書館（新図書館）を建設する必要がある。併せて特別コレクションの整理、保存、利用、展示ができる博物館的機能を有する施設や「場」が必要である。

(2) 学部学生の学習スペースとして、「場」としての図書館を位置づける必要がある。例えば、図書館資料を活用しながらグループで議論できるスペース、静かな環境で個人がじっくり学習できるスペース、雑誌や新聞などをブラウジングできるスペース、電子ジャーナルやデータベースなどの使い方をガイダンスできるスペースなどがあげられる。

他方、2008（平成 20）年度には検討機関を設置し、図書館の将来構想ならびに 2009（平成 21）年度から、夜間閲覧業務を業務委託の可能性や導入に向け広範囲に検討を行い、その業務委託については、下記の点に留意することが提言された。

①派遣と業務委託の違い、②委託範囲、責任範囲、図書館業務の蓄積など、長所と短所の明確化、③業務委託の目的、④専門的職務と非専門的職務の区分、⑤前年踏襲業務に留まらない業者選定項目の明確化（業務委託実施体制，研修教育体制，図書館運営の提案能力，実績等）、⑥委託仕様・マニュアルの確定（あくまで専任職員主体の図書館運営を構築）、こうした内容は、大学の発注能力も問われることになる。委託業者に対しては、単なる業務の丸投げ、前例主義的業務にならないように、発展的な運営方法が望まれる。

7-2-3 学術情報へのアクセス

［現状の説明］

１）図書館システム

本学図書館は図書館システムについて、1997（平成 9）年度に日本電気（株）の LICSU/21 を導入し、2003（平成 15）年度に富士通（株）の iLiswave を導入した。しかしながら、現行システムは，サーバー機器の保守サービスの停止や図書館パッケージソフトのメンテナンスサービスの停止などから，新しいシステムへ切り替える必要が出てきた。特にサーバー機器は、図書館システムの心臓部であることから，システムサーポートを軽視にすることはできない。

そこで、2008（平成 20）年度から、①仮仕様書の作成と業者への提出、②仮提案書の検討、③予算の申請を行なった。同時に、補助金の調査、リースもしくは買取型契約の調査、他大学図書館の調査を実施した。2009（平成 21）年度には，仕様書の最終確定が行われ、それに基づき、業者への提案依頼、業者による提案説明などを経て、業者決定が行なわれる予定である。

なお、現行の図書館システムでは、下記のサービスが可能になっている。

(1)Web からの図書購入依頼（学生、教員含む）、文献複写の依頼

(2)貸出情報、期限の Web からの閲覧

(3)携帯電話からの蔵書検索

(4)学園財務システムとの予算連携

(5)図書延滞者への督促メール（学園ポータルシステムとの連携）

２）書誌データの整備

2005（平成 17）年度からの継続により、過去に簡略的に入力した書誌データの一部が存在し、検索システムの運用の障害になっていた。書誌データの修正作業により、図書の内容、配置場所の表示がより正確となり、利用者が必要とする資料を速やかに提供できる。2006（平成 18）年度は，前年度に作業できなかった約 50％のデータの修正を実施した。2006（平成 18）年の 6 月から（株）マイトベーシックサービスに業務を委託し、同年 10 月中旬にすべての作業を完了した。

また、新宿図書館では、DVD、LD、CD など全ての視聴覚資料を図書館システムに入力し、蔵書検索システムから検索できるように整備した。

３）図書館ホームページ

図書館のホームページは、2002（平成 14）年 4 月に公開し、少しずつ内容を変えている。近年は、電子ジャーナル契約の増加などから、リンクを数多く作成しており、手作業でのホームページ作成が困難になりつつあり、デザインも古くなっている。

他方、他大学図書館のサイトは、「情報・文献収集のゲートウェイ機能」を有するものとなっており、本学図書館ホームページのリニューアルが必要である。

４）電子ジャーナル管理

電子ジャーナルは、版元によりリンク先が変更される場合があるため、本学図書館では、電子ジャーナル管理ソフト（A-to-Z；エブスコ社）を導入している。2007（平成 19）年度から、国内雑誌の電子ジャーナルも登録できるようになり、アクセス数も増加している。今後は、図書館システム（OPAC）に登録し、紙媒体と同時に検索できるシステムを構築することが課題である。

５）学術情報データベース

本学図書館では、下記のデータベースを導入している。このうち、最もアクセス数が多いものは、論文を検索し、電子ジャーナルにリンクしているデータベースである。

①JDreamⅡ、②SCOPUS、③MathSciNet、④聞蔵Ⅱ（朝日新聞データベース）、⑤ジャパンナレッジ、⑤理科年表、⑥建築作品データベース、⑦研究社辞書検索サービス、⑧CiNii

６）相互協力

外部機関・図書館との連携（相互協力）によるサービスも年々拡大している。そもそも利用者が必要とする資料や情報を提供するためには，自館の所蔵資料で完結できない。他大学、国立図書館、公立図書館などを利用したい学生・教員に対し、所蔵調査・確認、紹介状の発行を積極的に支援している。こうしたことにより、他機関への文献複写の依頼数は、2008（平成 20）年度をみると、新宿図書館が 177 件、八王子図書館が 958 件となっている。

また、私工大懇話会図書館連絡会（関東地区工科系単科大学 13 大学加盟）では、学生証、身分証明書（教職員）の提示のみで、自由に他大学図書館を利用できる相互協力を確立している。さらに八王子図書館では、東京西地区図書館相互協力連絡会（44 大学）に加盟し、同じく相互協力体制を確立している。

［点検・評価］［長所と問題点］［将来の改善・改革に向けた方策］

2003（平成 15）年度の図書館システムリプレイスにより、蔵書検索システムがリニューアルされ、検索結果がわかりやすくなった。また、インターネットから学外文献複写依頼や購入希望図書の申込みは、図書館に来館せずに利用できることから、便利であるが、特定の利用者に限定され、広く利用されていないことが問題である。

データベース類は、図書館が主に契約している。これは補助金の申請があり、契約書類や利用状況を一括して管理する背景がある。しかしながら、現在必要最低限のデータベースを契約している状況である。近年電子ブックをはじめ、さまざまなデータベースがあり、紙媒体から電子媒体への移行が急速に進んでいる。こうした電子媒体は，本学の資産として計上されず、アクセス契約となるため、図書費での購入は困難である。本学図書館の電子図書館化を推進していくためにも、電子媒体を契約できる予算体系の構築が急務であるといえる。

相互協力については、大学以外に地域の公立図書館とも進める必要がある。2009（平成 21）年度に

予定している図書館リプレイスでは、近隣の公立図書館の蔵書と本学図書館の蔵書を横断的に検索できるシステムを導入する予定である。このシステムは、学外の一般の方も利用でき、本学図書館の相互協力システムがより一層進むことが予想される。

7-2-4　学術資料の記録・保管・相互利用

［現状の説明］

１）研究紀要の刊行

本学図書館では、『工学院大学研究報告』並びに『工学院大学共通課程研究論叢』をそれぞれ年 2 回刊行している。これらの研究成果は『工学院大学研究報告』が 593 機関（うち海外 22 機関)、「工学院大学共通課程研究論叢」が 431 機関（うち海外 3 機関）へ寄贈している。他機関からも本学図書館に対し，紀要類の寄贈が行われている。こうした各大学の紀要類は、国立情報学研究所（NII）が提供している「学術雑誌支援公開事業」により、徐々に Web で自由に閲覧できるようになっている。本学図書館刊行の上記 2 誌は、2005（平成 17）年から全文が閲覧できる。

２）学術資料の保存と利用

近年、デジタルアーカイブスの事業が進んでいる。例えば、国立情報学研究所（NII）の「JAIRO」、国立国会図書館の「PORTA」、さらには国立大学附属図書館を中心に行なわれている「機関リポジトリ」などがある。

他方、こうした電子媒体だけではなく、紙媒体についても、下記のように館内の配置を工夫している。

学内の研究者による研究成果については，本学図書館内に学園資料コーナーを設置し、総合研究所刊行資料や科学研究費補助金報告書などを保存している。博士論文、修士論文は、指導教員名も図書館システムに登録し、一般の蔵書とともに検索することができる。なお、博士論文は閲覧室、修士論文は書庫に所蔵している。

規格コーナーを設置し、日本工業規格（JIS）をはじめ、IEC CISPR 国際電気標準会議 国際無線障害特別委員会、日本機械学会基準（JSME)、JASS 日本建築学会　建築工事標準仕様書・同解説、AIJES 日本建築学会環境基準、JVES　日本電動車両協会規格などを所蔵している。

なお，これらの資料は、蔵書目録検索システムからキーワードなどにより検索できる。

［点検・評価］［長所と問題点］［将来の改善・改革に向けた方策］

Web には数多くの学術情報資源が存在しており、こうした情報をナビゲートする機能が図書館ホームページに求められている。本学図書館でもこうした観点から、図書館ホームページのリニューアルを計画している。Web から紀要類の閲覧が自由にできる環境が整いつつあることを勘案すると、今後本学図書館では冊子体として保存する紀要類の収集方針を明確にし、電子媒体の整理、情報提供への転換と、そのシステムを構築していく必要がある。

また、本学図書館が一方的に他大学・各種機関の研究成果を受信するに留まらず，本学図書館が学内の「機関リポジトリ」としての役割を果たし，Web で公開されている学内の研究成果を収集・整理・保存し、学外へ発信することで、学内の研究成果の公開と研究成果の活用、社会貢献につながると考えられる。そのためには、工学系の専門的な資料を取り扱える人員の配置や、教員との連携が必要である。図書館内に限定した狭い視野で考えるのではなく、学園内さらには社会的な変化を踏まえ、図書館サービスも変化させていく必要がある。

7-2-5　図書館の地域への開放の状況

［現状の説明］

2006（平成 18）年度までは、本学在校生・教職員・卒業生・その他学園関係者を中心に、他大学学生、教職員は、所属大学図書館長の紹介状持参者に限り利用を認め、地域住民、会社、団体等への図書館利用の便宜は図っていなかった。しかし、2006（平成 18）年度に受審した（財）大学基準協会相互評価並びに認証評価において「地域住民へ利用の便宜を図ることも検討されたい」旨の指摘を受け

た。この指摘を受け、早期に実現するために 2007（平成 19）年 3 月から、私工大懇話会図書館連絡会（加盟 13 大学)、東京西地区図書館相互協力連絡会（加盟 44 大学)、私立大学図書館協会等の協力を得て、地域開放に関する資料を収集、聞取り調査、アンケート等を実施した。同年 6 月には、主任教授会議、教授総会等の承認を経て、2007（平成 19）年 10 月 1 日から、新宿図書館で地域住民に対する利用サービスを開始した。具体的な一般開放の実施内容は下記の通りである。

①原則として新宿区、中野区、渋谷区の在住者及び在勤者、②18 歳以上で学術調査・研究を目的とすること、③利用曜日・時間は、月曜日～金曜日の 9:15～21:00、④利用範囲は、館内に配架されている図書・雑誌の閲覧、著作権の範囲内での複写、蔵書検索システムの利用、所蔵資料に関する簡易なレファレンス、⑤利用料金は無料、⑥利用受付・手続きは、身分証明書（基本的にはパスポート、運転免許証、所属する団体が発行した身分証明書、健康保険証のいずれか一つ）等を提示

［点検・評価］［長所と問題点］［将来の改善・改革に向けた方策］

地域住民への一般開放は、当面新宿図書館のみとし、八王子図書館は新宿図書館の状況を十分精査したうえで実施することとした。2008（平成 20）年度の延べ利用者数は、99 人（新宿区内在勤者 73 人、新宿区在住者 10 人、渋谷区内在勤者・在住者 15 人、その他 1 人）となっている。新宿図書館は、都庁に隣接する環境にあり、高層ビルには優良企業が存在するため、交通の利便性からも外部からの利用に関する問い合わせが増加している。今後は、利用範囲の拡大、所蔵する図書・雑誌の貸出、時間延長、土・日曜日の利用など、様々な要望が出てくることが考えられる。また、本学園には、エクステンションセンターが設置されている。今後はこうした機関との連携も視野に入れる必要がある。

7-3 情報科学研究教育センター

［現状の説明］

情報科学研究教育センター（以下センター）の設備環境は、以下のとおりである。

１）設備：サーバ系

本学の教育研究用共同利用コンピュータシステムは、演算サーバとして IA64 サーバ（Itanium2, 32core, Memory 64GB）と PC クラスタシステム(Xeon 5130,Memory 2GB,32 ノード)を導入した。IA64 サーバはパーテーション分割をし、商用アプリケーション利用ユーザと自作系計算ユーザが適切なリソースで利用できるように考慮している。PC クラスタシステムは 32 台の PC を同時に使用することによる並列性を生かした大規模な解析をおこなえる。

他のサーバとしてファイルサーバや電子メールサーバ、ユーザ管理サーバなどを設置している。省資源化のためにプリント出力枚数管理システムを導入し、紙の無駄な消耗、費用の削減に努めている。

２）設備：ＰＣ系

主に教育で利用される演習室（新宿 3 室、八王子 4 室）と、自由に利用できるカフェテリア室（新宿 1 室、八王子 3 室）、加えて新宿には UNIX 演習室と 3D デザインセンターがあり、センターが直接管理する PC は 700 台を超える。

2007（平成 19）年夏には新宿キャンパス再整備計画に基づき第 2 演習室と 3D デザインセンターを高層棟 15 階から 16 階へ移転した。また情報学部新設に伴う利用者増に対応するため中層棟 6 階に第 3 演習室を新設しサービスを開始した。

演習室 PC には OS に Windows XP SP2 が稼働するスリム型の PC を各 66～74 台設置し、1 年次の情報処理概論及演習や 2 年次以降の専門科目の授業で必要なソフトウェアを導入している。カフェテリア・UNIX 演習室のパソコンは演習室と同仕様であるが、卒論や研究に必要なソフトウェアを追加している。

各演習室にはホワイトボード、プロジェクター、AV 装置が設置され、教師用パソコン画面や書画カメラの画像を表示するための中間モニタをパソコン 2 台に 1 台の割合で配置している。教師用 PC は 2 台用意し、より効果的な授業ができるよう工夫している。演習室は授業が行われていない時間帯の演習室は自由に利用可能である。

３）学術情報ネットワーク

学内 LAN は、幹線・支線とも 1Gbps のギガビットイーサネットで構成されている。各キャンパスのコアスイッチには高性能シャーシ型コアスイッチ、エッジスイッチは L2 スイッチを設置し、VLAN を用いて網を構成している。

新宿キャンパスと八王子キャンパスの間は 1Gbps の広域イーサネット接続、八王子キャンパスと犬目キャンパスの間はダークファイバ(1Gbps)で接続している。また、対外インターネット接続は新宿キャンパスから 100Mbps の帯域で接続している。セキュリティ対策としてファイヤーウォールを設置し、学内と外部の通信に制限を設けている他、振舞検知システムによる端末の挙動を監視している。学外のインターネット接続された端末から安全に学内 LAN に接続するための VPN サービスも提供している。

[点検・評価][長所と問題点]

授業に関しては「情報処理概論及演習」の他、学部・学科の情報処理設備を利用する教育に利用されている。演習室の利用状況は以下の通りとなっている。新宿は平均して 30%程度、八王子は平均して 27%となっている(2008（平成 20）年度)。大学基準協会審査の際に八王子情報演習室の授業使用割合の高さから自由利用時間が少ないのではないかという事前質問があったが、実際はこの他にカフェテリアがあり自由利用が可能で、学生の自己学習を妨げることはないと回答した。

表 7-9　演習室利用状況

2007（平成 19）年度

	月		火		水		木		金		土	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
新宿	25	31	21	26	50	14	36	23	29	31	18	17
八王子	30	30	50	50	55	45	65	60	65	55	0	10

2008（平成 20）年度

	月		火		水		木		金		土	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
新宿	29	43	37	34	40	31	31	23	29	34	14	23
八王子	17	17	33	37	37	27	40	40	40	40	0	0

（実際に授業が入ったコマ／時間割上の全コマ数×100 で計算。単位%）

前回の調査［2002（平成 14）年度］と比べると八王子の割合が減り、新宿の割合が増えている。これは情報学部新設に伴う結果である。2007（平成 19）年夏に新宿中層棟に第 3 演習室を増設（66 台増）し新宿での利用可能端末を増やしたが、情報学部の完成年度［2009（平成 21）年度］ になると新宿演習室利用はさらに増加すると予想され、2007（平成 19）年度から 2008（平成 20）年度の利用状況の推移はまさにその通りとなっている。また、これまでセンター情報処理設備を使わなかった授業でも少しずつ利用が増え、共同利用設備を提供するセンターは今後も重要な役割を担うことになる。

新宿に関しては場所的な問題もあり、今後演習室を増やすことは難しいが、可能ならば利用可能な端末数を増やすことを考えたい。

研究設備に関して主なものに演算サーバがある。演算サーバは用途別に 3 種類用意しているところが特徴である。その中で商用アプリケーションを入れているサーバが一番利用率が高くなっている。2007（平成 19）年夏の入替で今まで以上に高速・大規模計算が可能となり、本学の研究活動に貢献している。今後も利用者のニーズをつかみつつ適切な研究設備を導入していきたい。

ネットワークの整備についても 2007（平成 19）年夏に基幹システムを更新した。これによりエッジスイッチ配下でのループ障害について自動的に切り離せるようになった。また 2002（平成 14）年より行っている電子メールのウィルス対策の強化に加えて、spam メール対策や振る舞い検知システムの導入を行い安定したネットワークの提供のために多様な手段を講じている。

［将来の改善・改革に向けた方策］

教育研究を目的に設置・運用しているシステムは学内のインフラとして安定して安全に稼働しなくてはならない。これらの脅威として考えられるものは、通常のシステム的障害はもちろんであるが、他に不正アクセスや不正使用行為、コンピュータウィルスなども考慮すべきである。これらの対策も日頃から情報収集・分析し、対策していかなくてはならない。

道具としてのパソコンがインターネットにつながり、大学で生活を送る上でなくてはならないものとなっている今、正しい利用技術を伝えることがセンターとして重要な課題であるといえる。学生に対しコンピュータを使うための情報処理教育は当然であるが、プライバシーの保護や著作権、肖像権、不正行為などのコンプライアンス遵守など情報倫理についても正しく理解させ、インターネットを活用するために不可欠なセキュリティへの意識を持たせなくてはならない。このことは、在学中のみならず卒業後においても大事なことである。

セキュリティを強化することは利用者の安全性を確保できるが、利便性を犠牲にすることにつながる。この相反する事項をどのようにバランスよく進めていくか検討し、安全なシステムを提供していかなくてはならない。

7-4 学習支援センター（6 章　6-1-3 にも関連記事）

［現状の説明］

本センターは 2005（平成 17）年 4 月に開設、2008 年度で 4 年が経過し、ようやく軌道に乗ってきたと考える。現在、八王子校舎には 2007（平成 19）年度に落成したスチューデントセンター内に本センター固有のスペースを有し、受付、センター講師スペース、個人指導スペース、自習コーナー、基礎講座用教室二室が完備されている。また、新宿校舎では地下 1 階と 10 階にセンターがあって個人指導を実施しており、基礎講座は通常教室を併用している。特に基礎講座は、基礎教育を必要とする学生に効果的に実施するため専門学科と連携して実施している。

センター講師は八王子校舎に数学 4 名、物理 4 名、化学 2 名、英語 2 名を配属、新宿校舎には数学、物理、化学、英語担当が各 1 名いる。

年間利用学生延べ人数も八王子校舎で 11,000 人、新宿校舎で 2,500 人とこの 3 年間ほぼ一定している。

［点検・評価］

入学制度の多様化に伴い、基礎学力のチェックを十分受けずに入学する学生が増加し、入学後の大学授業に支障を来す状況になってきたことから、それらの学生のサポートを目的にセンターが設置された。この三年間では、小学校から「ゆとりある教育」カリキュラムで育ってきた学生が入学するようになったこともあり、入学時の基礎学力不足はさらに進行していると見受けられる。そのような中で、基礎から丁寧に説明を受け疑問を解消する個別相談の機会と、プレースメントテストで学力不足と認定された学生を中心に講義する基礎講座は大きな役割を果たしており、センターの重要性は今後益々増大すると思われる。

2 科目入試や AO 入試、資格優遇など多様な入試制度で入学した学生が増加し、よりきめ細かな指導が求められている。特に、専門の土台となる基礎科目の学力を補うためには、強制力のない学習支援センターの教育だけでは不十であり、さらに専門学科との連携を強化するとともに、カリキュラムとして保証する必要がある。

［長所と問題点］［将来の改善・改革に向けた方策］

センターに対する学生満足度には高いものがあり、アンケートによると利用者の 80%以上が満足し、理解が深まったとの回答を寄せている。個人相談は、学生が Web 上で予約することも可能となり、試験時期が近付くとかなりの学生が訪れ、時たま予約がとれないとの不満が寄せられることもある状況である。一方、基礎講座については、本来出席するのが望ましいとされた学生が必ずしも出席していない状況もあり、指導を強化する必要がある。

また、本来は高校レベルや、1 年時基礎科目の理解の強化を目指す場であるが、専門科目についての相談も多く寄せられ、基礎レベルの相談学生への対応に支障を来している部分もでてきており、改善する必要がある。しかし、入学生の一般的な学力と大学授業時に必要とされる学力のギャップを、本センターが中心となって埋めていくことには限界があり、1 年時の正規カリキュラムのあり方について抜本的な改革を必要とする時期に来ていると考える。センター講師が学生に直接接し、把握してきた一般的な学力レベルについて十分ヒヤリングし、専門学科の教員にも理解を求め、1 年前期のカリキュラム内容を改善することが必要である。

センター固有の問題としては、二部学生の減少に伴い、センター講師を新宿、八王子にどう配分するかについて、再検討が必要である。また、施設面では新宿校舎の指導室が手狭で学生ラウンジ内にあるため、利用を躊躇する学生も少なからず見受けられる。早急に施設面の手立てが必要と思われる。

7-5　厚生･研修施設

［現状の説明］

１）八王子校舎

(1)セミナーハウス松風舎（しょうふうしゃ）

学生の厚生施設として、「セミナーハウス松風舎」がある。この施設は、学生・教職員が研究室のゼミ等の教育研究活動や委員会・クラブ・公認サークルなど学生団体等の活動に供することを目的とした施設である。宿泊室として 8 室（収容人数は 48 名）、セミナー室が 1 室、屋外にはバーベキュー場がある。施設利用の申請は八王子・新宿学生課で取り扱っている。

(2) 部室棟・スチューデントセンター棟（八王子キャンパス）の貸与

学生団体（委員会・クラブ）に対して、部室棟（同付属倉庫などを含む)、スチューデントセンター棟などの部室を貸与している。貸与期間は毎年 5 月 1 日～翌年の 4 月末までの 1 年間としている。

表 7-10　2008（平成 20）年度　部室棟貸与状況

１階		２階		３階	
部屋番号	クラブ名	部屋番号	クラブ名	部屋番号	クラブ名
5101	スキューバダイビング部	5201	剣道部	5301	マンガ研究会
5102	サッカー部	5202	マンドリンクラブ	5302	アイスホッケー部
5103	アメリカンフットボール部	5203	音楽部	5303	弓道部
5104	硬式野球部	5204	吹奏楽部	5304	ヨット部
5105	バトミントン部	5205	空手部		卓球部
5106	モーターサイクル部	5206	マジシャンズ･ソサエティ	5305	自動車部
	航空部				ゴルフ部
5107	ワンダーフォーゲル部	5207	美術意匠部	5306	古武術部
5108	舞踏研究部	5208	電子技術研究部		ラグビー部
5109	陸上競技部	5209	ハイキング部	5307	硬式庭球部
5110	写真部	5210	自然科学研究部	5308	少林寺拳法部
5111	共同暗室	5211	英語部		テコンドー部
5112	写真部暗室	5212	Ｋ・Ｐ・Ｆ・Ｒ	5309	ＳＦ研究会
男子トイレ		女子トイレ・湯沸室		5310	バレーボール部
男子シャワー室		男子トイレ		5311	スキー部
女子シャワー室、女子トイレ		5213	サークル室	5312	ソフトテニス部
5113	洗濯室	5214	会議室		
5115	更衣室	5215A	共同練習室 A		
5116	保健体育科教員控え室	5215B	共同練習室 B		

2）学外施設

学生、教職員、校友のための福利厚生施設として、3か所の学寮を設けている（富士吉田セミナー校舎・白樺湖学寮・軽井沢学寮）。学寮は、研究室・クラス・クラブの合宿、あるいは個人で、教育研究の利用を目的とした宿泊施設である。これらの施設には、開設期間中は管理人が常駐し、衛生面や安全管理には細心の注意が払われている。利用については、以下のとおりである。

2006（平成 18）年 12 月に大学後援会の寄付により、富士吉田セミナー校舎にエアコンが設置され、年間利用が可能となった。

表 7-11　学寮の利用手続き

利用資格	1.学園関係者（学園が設置する学校の学生・生徒・教職員） 2.卒　業　生（学園が設置する学校の卒業生・修了生） 3.家　　族※（学園関係者および卒業生の家族） 4.一　　般（学園関係者または卒業生と同行する者） ※学園関係者・卒業生が同行する場合に限ります。
利用期間	3 泊 4 日まで
予約受付	【研究室・クラブ等の団体】（公認クラブおよび学生自治会公認のサークル等） 利用日の 3 か月前から予約受付。 【個　人】 利用日の 14 日前から 7 日前まで予約受付。 ※夏期期間（7/19～9/7）の予約受付は研究室・クラブ等の合宿が優先するため、別に定めた要領で実施します。
申込手続き	利用開始日の 7 日前（休日を除く）までに手続きを完了してください。 （未手続きの場合はキャンセル扱いとします） 変更・キャンセル等は利用開始日の 3 日前（休日を除く）まで受け付けます。 （利用料金がすでに支払った金額より減る場合は払い戻します）

表 7-12　利用者数の変遷　（単位：人）

年度	富士吉田セミナー校舎	白樺湖学寮	軽井沢寮
2006	1268（1883）	539（855）	275（455）
2007	1302（1980）	539（918）	208（367）
2008	1263（1907）	513（824）	267（450）

＊利用者数は、1 泊でも 2 泊でも 1 回の利用で、カウント 1。
＊（　）＝延べ人数　1 人が 1 泊したらカウント 1。2 泊の場合はカウント 2。

［点検・評価］［長所と問題点］［将来の改善・改革に向けた方策］

この 3 年間の施設利用者数にあまり変化は見られない。

7-6 安全、環境保全、防災、非常用設備

クラブ活動が活発になりつつあり、活動場所や部屋の確保が課題となっている。